

.....
本会記事
.....

新年を迎えて

新年明けましておめでとうございます。

2020年からコロナ禍で過ごした3年間でしたが、昨年5月の5類移行を境に人々の動きは2019年以前の状況に戻ってきたように思います。事務局のある京都では、観光地として有名な清水寺や嵐山渡月橋周辺では、車道に人が溢れ出るオーバーツーリズム状態となっています。京都在住者にとっては、コロナ以前の活況が戻ってきているように思いますが、ニュースによるとインバウンドの数は、ようやくコロナ前に近づいてきたという状況らしく、まだ増えるの？と戦々恐々としています。

さて、昨年秋はようやくJSPMIC2023国際会議を開催することができました。当初開催予定であった2022年の秋は、まだ海外からの講演者を招くことができない状況でしたが、1年後の昨年の秋は、海外から講演者を招くことができました。皆様のご尽力のお陰で、無事終了できましたこと改めてお礼申し上げます。

コロナ前、講演発表会は現地会場での開催が当たり前で、オンラインによる大会開催は思いもよりませんでした。今はハイブリッド形式を継続されている学会、また、春は対面形式、秋はオンライン形式で開催されるなど開催方法が多様化しています。当会では昨年4年ぶりに春秋大会ならびにJSPMIC2023の3大会を現地対面で開催することができました。対面開催には、発表での質疑応答以外で研究者同士交流することができるという最大のメリットがあります。当会では、春秋大会は可能な限り対面開催を考えています。本誌にも2024年度春季大会講演募集を掲載していますが、多くのご発表、ご参加をお待ちしています。

皆様もご承知のとおり、本年秋にWORLD PM2024を日本粉末冶金工業会と共催で開催します。同国際会議は、10月13日（日）～17日（木）の5日間、パシフィコ横浜において開催します。12年前のPM2012も同時期に同じパシフィコ横浜で開催しました。参加者は約740名を超え、展示来場者も1000人を超える規模でしたが、当初500件近くあった講演申込が、PM2012開催前年に発生した東日本大震災からの原発事故や2012年の尖閣諸島問題の影響を受け、開催直前に多くのキャンセルがでたことを覚えています。今回はコロナの影響も落ち着き、多くの方にご発表、ご参加頂きたいと思います。この本会記事発行時には、講演申込が終了している頃ではありますが、3月にはプログラムもでき、4月からは参加募集を開始します。また、Plenary SessionやSpecial Interest Seminarなど情報を会議サイトで順次公開していきます。情報更新後、E-blast等でご案内をします。是非ご覧ください。

様々な情報がオンラインで発信される中、当協会「粉体および粉末冶金」への投稿論文も、J-STAGE（オープンアクセス誌）で公開していますが、昨年10月よりアクセプトになった投稿論文は、会誌の冊子体に掲載される前にJ-STAGEで早期公開することになりました。早期公開には追加費用は発生しません。皆さんの論文をいち早く多くの人に見て頂けるよう順次公開しています。公開になった論文にはDOI（デジタルオブジェクト識別子）が付与されますので、冊子体になる前にも既に公開となった論文をDOIの表記で引用文献として利用頂くことができます。前述のWORLD PM2024ではProceedingsが発行されますが、このProceedingsは最初に、WORLD PM2024のサイトで公開し、その後J-STAGE「粉体および粉末冶金」のサプリメントとして公開しますので、恒久的に公開されることとなります。多くの論文が閲覧、引用されることを願っています。

分科会の再編も少し時間がかかっていますが、引き続き会員皆様の役に立つことができるよう取り組んでいきますので、本年も宜しく願います。

（井上羊子）

